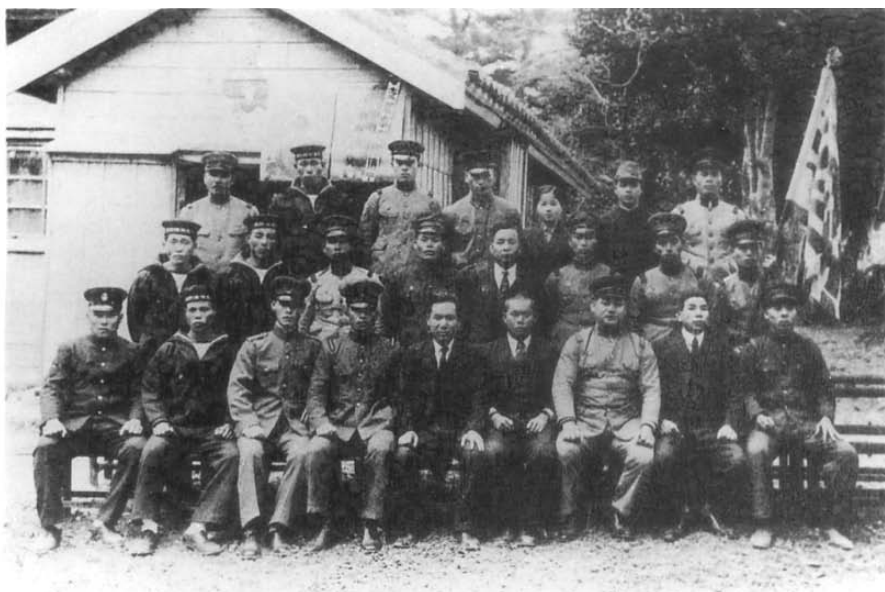


第3章 沖縄戦、そして基地接收 基地返還を勝ち取る闘い

—— 戦前・戦中・戦後 ——

戦時体制の中へ

第一時世界大戦から昭和初期にかけての世界恐慌は、経済基盤の不安定な日本に深刻な経済危機をもたらし、尋常な経済政策では解決の糸口を見いだし得ず、他国を侵略するという暴挙にでたのである。沖縄県においても富国強兵策のもとに皇民化教育が徹底されていった。

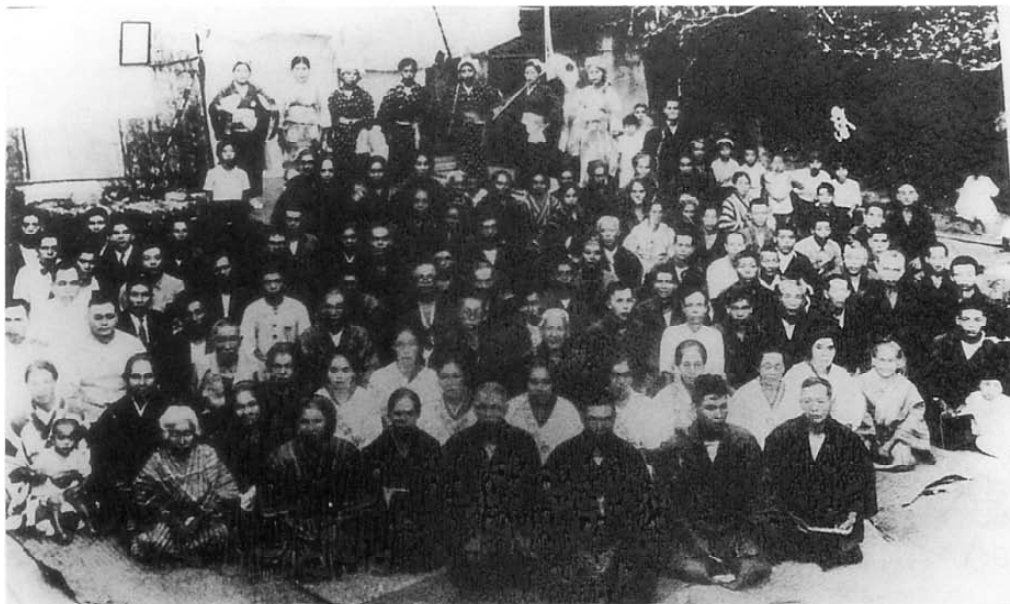


98 役場前にて在郷軍人分会幹部及帰還兵の記念撮影。
1939年（昭和14）。



99 喜名観音堂庭にて応召兵武運長久の祈願祭。
1939年（昭和14）。

100 献穀粟御播種式の乙女たち。
沖縄県代表として波平の農
家が選ばれる。
1939年（昭和14）。



101 古堅事務所前広場
前にて応召軍人並
に現役兵軍人武運
長久祈願祭同遺家
族慰安会。1940年
（昭和15）9月。

102 祝出征兵士後援会ダバオ字喜
名同志会。移民先でも現地召
集がありフィリピン戦線に
服役した。
1938年（昭和13）8月。



米軍の上陸

太平洋戦争も終焉に近い1945年（昭和20）4月1日の早朝、夜が明けようとする5時30分、アイスバーク作戦と呼ばれ沖縄攻略の火蓋が切って落とされた。空からは数千の攻撃機が猛攻撃を繰り返し、戦艦10隻・巡洋艦9隻・駆逐艦23隻、そして177隻の艦砲が一斉に読谷の陸地に向かって火を噴いた。こうして、読谷・北谷海岸に終結した1,300の艦隊に乗り込んだ連合国の兵士約45万人が上陸した。上陸地では生ける物は蚊や蠅までいるようでもなかったと上陸兵士が回述している。



103 米軍の沖縄本島上陸作戦。左側の比謝川河口から水釜海岸に停泊する米艦船の様子。
1945年（昭和20）4月4日。



104 爆撃を受けた渡具知集落と比謝川河口。嘉手納製糖工場へのトロッキ回転橋が破壊されている。
1945年（昭和20）4月。

105 渡具知メヌ浜（イエロービーチと呼んだ）に補給物資や資材を降ろす兵士。
1945年（昭和20）4月。



106 読谷海岸のリーフ内を進軍する海兵隊員。日本軍はすでに南下しており無血上陸となった。
1945年（昭和20）4月1日。

107 前線部隊と交替するため、比謝橋を通過する米兵。
1945年（昭和20）4月8日。



米軍に収容される村民

逃げ遅れた住民は米軍に保護され、持参のレーションや水が与えられた。一部の年寄は北部避難に耐えられず、死に場所を生まれ育ったシマと決めていたのである。男手は兵隊にとられており、避難行は女子供が中心であった。戦況は中部を分断した米軍が本島北部・南部に進軍した。読谷村住民の避難地は国頭村の西海岸集落に割り当てられていた。山原を米兵や日本兵から逃げまどい、山中で食料難やマラリヤに苦しみ死に至るものも多かった。



108 上陸後、保護された村民。1945年（昭和20）4月。



109 北部への避難をあきらめ残された老人からまず保護された。楚辺の真茹牛百次のおじいさん・花打小の姉妹・前喜名のばあさんである。

1945年（昭和20）4月。



110 波平で保護された村民、ここから楚辺の仮収容所に収容された。波平のミーヤマチダ・次男ミーヤークランニー・カマドメークランニー・ミーヤーアサトの家族である。1945年（昭和20）4月1日。

111 保護された村民はさっそく集められ、焼け残った民家に仮収容された。

1945年（昭和20）4月3日。



112 逃げ遅れた家族が保護された。無邪気に笑う子供と親が対称的である。1945年（昭和20）4月。



113 配給制が整い米や塩の配給を受ける喜名住民。役場が配給所に当てられていた。

平和を希求して

沖縄戦が終わって、村土は荒廃した。読谷山村建設隊によって波平地区に2×4の規格住宅が造られ、環境整備がなされた1946年（昭和21）12月12日に収容所から第1次村民5,000人の受け入れが始まった。数次に分けて移動が繰り返され、1948年（昭和23）4月15日に移動完了祝賀会が催される。そんな混乱した復興期の中を軍人軍属の戦争犠牲者1,600余柱の御霊を慰め、平和を願い、各地に慰霊の塔が建立された。おそらく民間人の戦死者も同数あるいはそれ以上と考えられている。



114 喜名青年会慰霊祭、旧梯悟之塔にて。1950年。



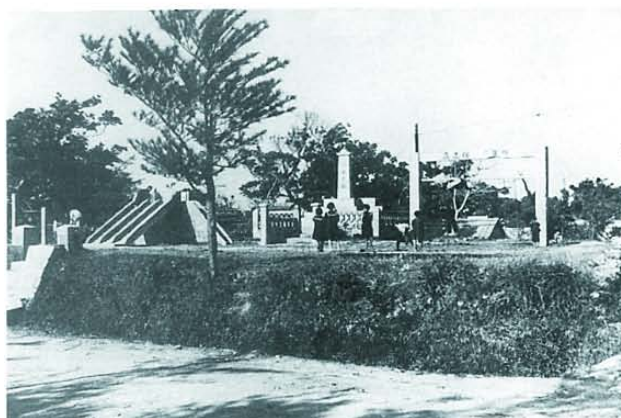
117 座喜味「永和の塔」。1951年（昭和26）8月建立。



115 波平「平和の塔」。1951年（昭和26）12月建立。



118 伊良皆「慰霊之塔」。1959年（昭和34）11月建立。



116 高志保「護永之塔」。1957年（昭和32）夏建立。



119 渡慶次「忠魂碑」。1913年（大正2）10月建立。



120 渡慶次「鎮守の塔」。1951年（昭和26）建立。



124 長浜「真砂之塔」。1959年（昭和34）6月建立。



121 儀間「永魂之塔」。1959年（昭和34）11月建立。



125 楚辺「慰霊之塔」。1961（昭和36）2月建立。



122 宇座「宇座守の塔」。1965年（昭和40）9月建立。



126 大木「慰霊碑」。1981（昭和56）3月建立。



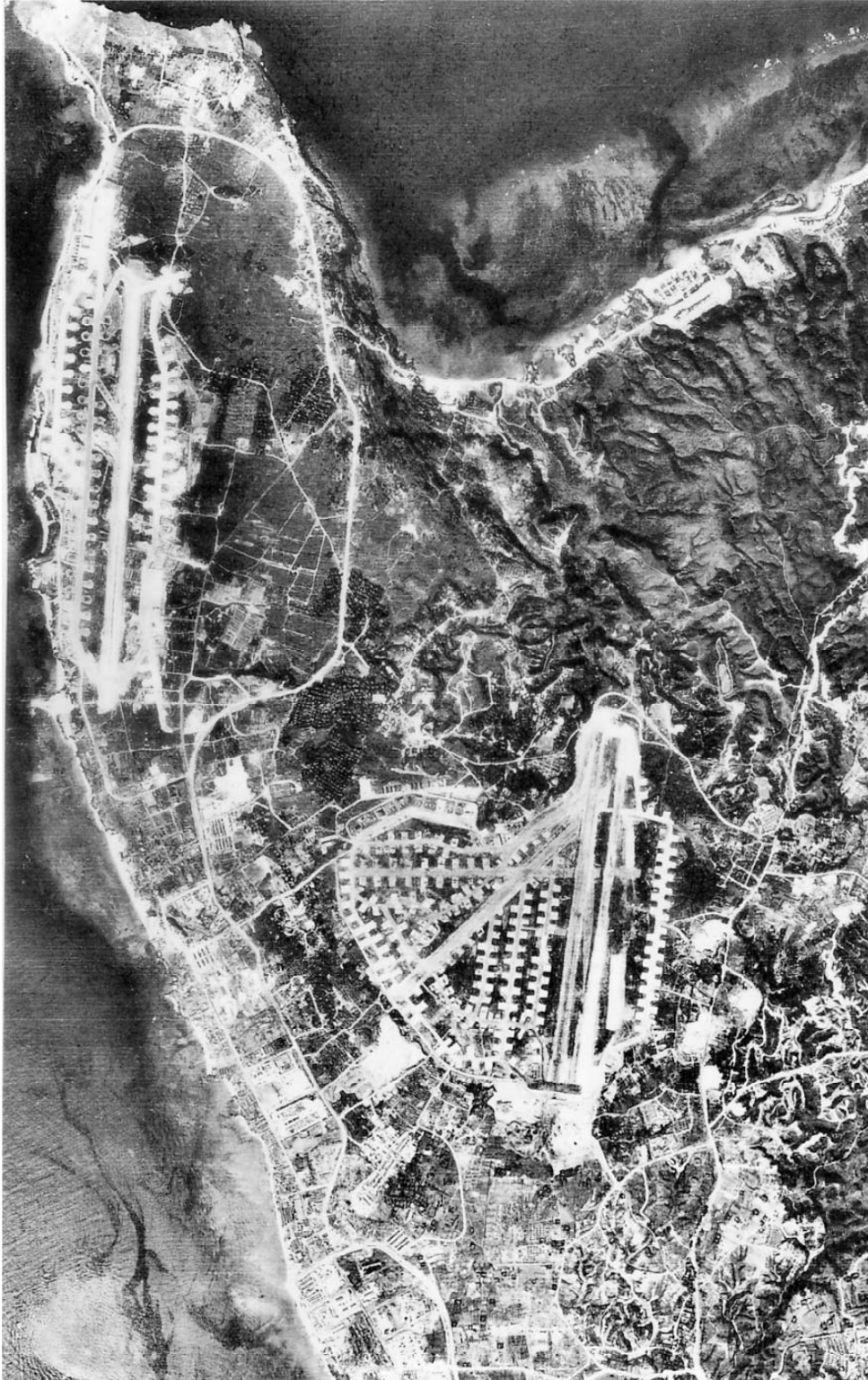
123 瀬名波「永和之塔」。1969年（昭和44）9月建立。



127 大湾「慰霊塔」。1959年（昭和34）12月建立。

基地接収

沖縄の軍事基地化はアメリカ軍の沖縄本島上陸作戦に始まっている。とすると読谷村の米軍基地はその先駆けとなる。読谷北飛行場は昭和18年頃に日本軍によって造られ、現在にいたるまでの米軍のアンテナ基地、パラシュート降下訓練基地として継続使用されている。終戦後は読谷補助飛行場それに嘉手納弾薬庫地域はじめ基地が村全土を覆い、95パーセントを占めていた。返還の進んだ今日でも48パーセントを占めている。



128 終戦後、村全土が基地と化し、村民は収容所生活を余儀なくされた。



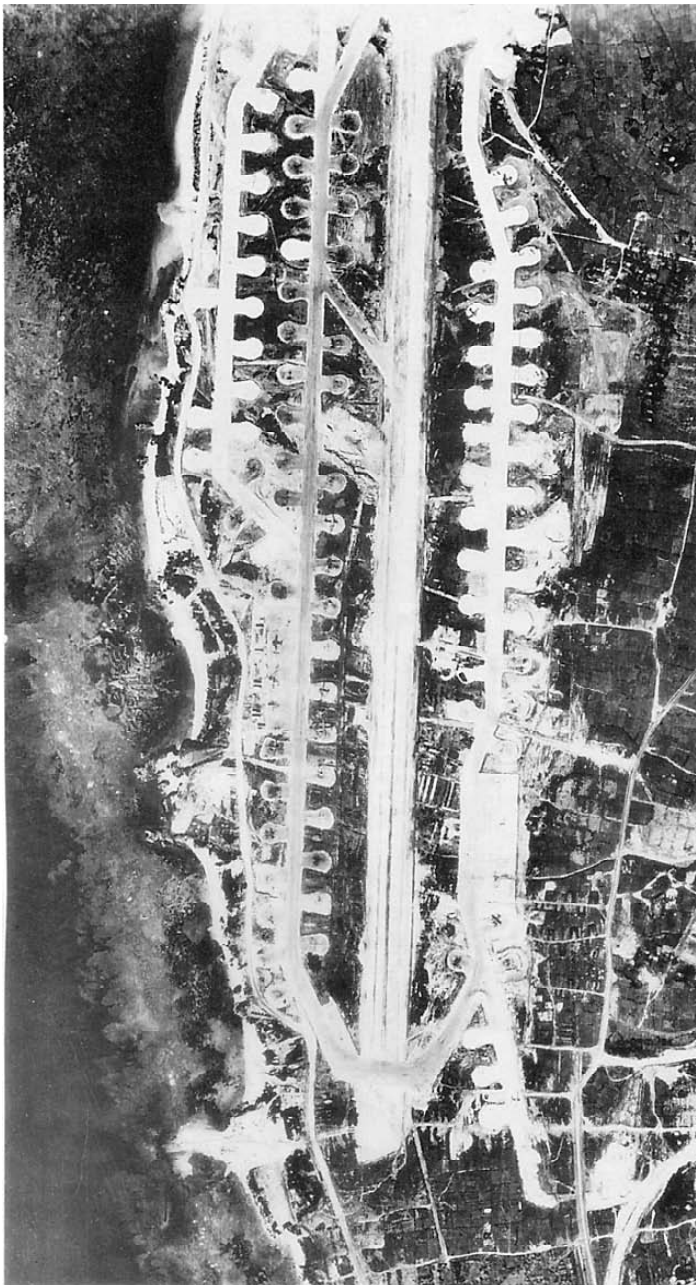
129 マニラから読谷飛行場に降り立ったマッカーサー連合軍総司令官。1945年（昭和20）8月29日。



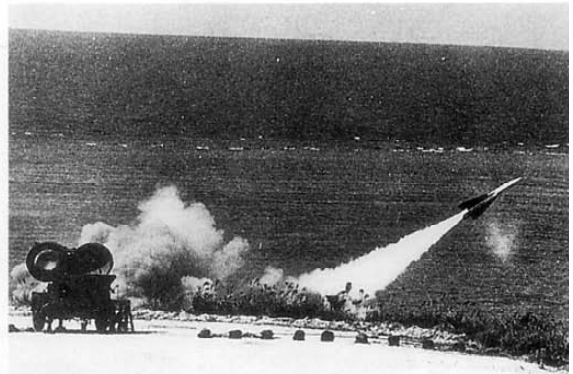
130 像の檻と呼ばれる「FAC 6026 楚辺通信所」。1945年（昭和20）4月より継続使用となっている。



131 特殊部隊グリーンベレーの基地として知られる「FAC 6036 トリイ通信施設」。1945年（昭和20）8月より継続使用。



132 米軍上陸直後造られたボーローポイント飛行場、後にナイキ・ハーキュリーズミサイル基地となる。1974年（昭和49）11月30日に返還される。



133 ナイキ・ホークの発射演習。
1963年（昭和38）11月。



134 残波岬で発射演習を見学する自衛隊員。
1968年（昭和43）2月。

135 楚辺通信所に北側に集結した米軍。
1964年（昭和39）2月。





136 伊良皆の東、「F A C 6022 嘉手納弾薬庫地区」は極東最大の米空軍基地、嘉手納飛行場に隣接する施設で読谷村をはじめ恩納村、石川市、具志川市、嘉手納町、沖縄市にまたがり2,892haを有する弾薬庫群である。



137 村の中央にある「F A C 6027 読谷補助飛行場」滑走路。同飛行場は日本軍によって造られたが、米軍上陸後は本土空爆の拠点となった。以後、パラシュート訓練の行われる大蔵省管理の米軍提供施設。座喜味、喜名、伊良皆、大木、楚辺、波平地域にまたがり191haを有する。



138 瀬名波にある「F A C 6021 瀬名波通信施設」、占領後、1949年（昭和24）海外放送情報サービス沖縄ステーション（F B I S）として設置され、以降西太平洋諸国の放送を傍受している。瀬名波、宇座、渡慶次にまたがり61haを有する。

基地被害と闘い

読谷村の基地被害は弾薬庫地域のガス漏れ事故、補助飛行場に関する飛行機の墜落事故、パラシュート降下事故、不発弾処理場からの破片の民間地域への落下、学校の騒音被害等枚挙にいとまがない。そんな中を村民は基地撤去と恒久平和を叫び、抗議集会、抗議行動を繰り返していった。そんな闘いの中から宇座、渡慶次、長浜、座喜味、喜名、渡具知地域の基地を村民の手にとりもどしてきたのである。



139 パラシュート訓練のための風速測定用8.5kgの角材が民家の屋根を直撃。
1966年（昭和41）11月29日。



140 パラシュートによるトレーラー落下によって
棚原隆子ちゃんが下敷きになり圧殺される。
1965年（昭和40）6月11日。



141 喜名小学校で行われた隆子ちゃん圧殺事件の県民抗議大会。1965年（昭和40）6月18日。



142 楚辺に米軍T33ジェット戦闘機が墜落炎上する。1971年（昭和46）10月29日。

143 読谷飛行場内米軍アンテナ設置反対村民大会。猛雨の中を820名の村民が参加した。1976年（昭和51）10月23日。



144 不発弾処理場撤去の座りこみ抗議をする村民、現在のアロハゴルフ場駐車場付近。1978年（昭和53）。



145 読谷補助飛行場でのグリーンベレーの
パラシュート降下訓練。



146 読谷補助飛行場でのパラシュート降下
訓練。普天間基地に常駐するヘリのC
H-46Eシーナイト。1984年（昭和59）

147 読谷補助飛行場での細菌・毒ガス訓
練。1987年（昭和62）

148 キビ畑に降下したグリーンベレーは抗議団から急いで退散
する。1988年（昭和63）



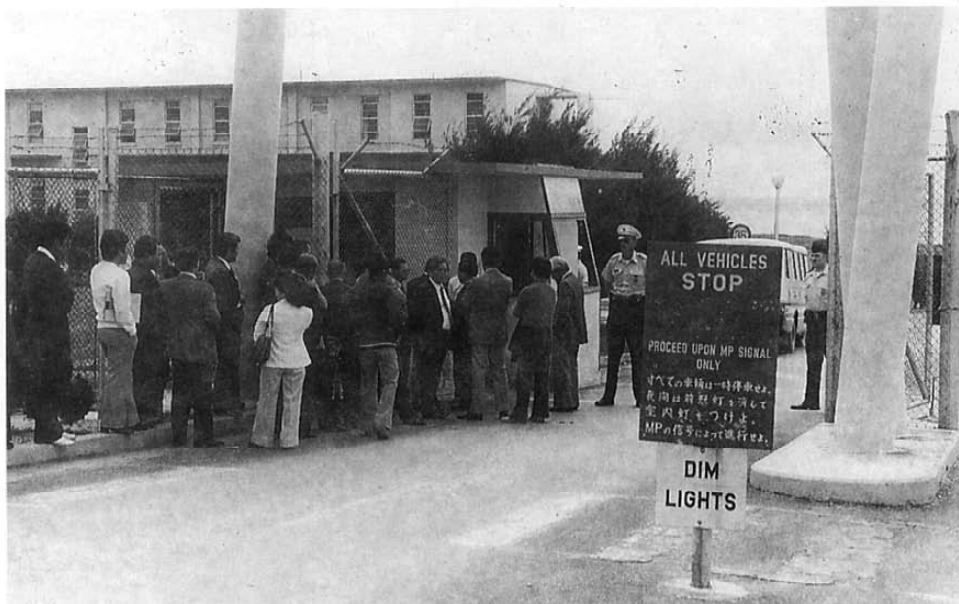


149 ターゲット外に降下し抗議団から逃げる米兵。1979年（昭和54）

150 パラシュート降下訓練の度に行われる日常化した抗議大会。1979年（昭和54）



151 米軍保養施設トリイビーチ拡張反対行動。1984年（昭和59）9月5日。



152 米兵による民間人への発砲事件を抗議する関係者。1983年（昭和58）4月6日。



153 読谷補助飛行場での滑走路緊急修復訓練。
1986年（昭和61）10月30日。

154 パラシュート降下演習に対する抗議行動。
1989年（平成1）。



155 読谷補助飛行場での滑走路緊急修復訓練に
抗議する抗議団。
1986年（昭和61）10月30日。

156 パラシュート降下訓練の早期抗議行動。ト
リイ通信施設前にて。1990年（平成2）。





157 CH-53Eシーナイトヘリによる宙づり訓練で村内上空を飛行。
1992年（平成4）10月27日。



158 大添、民家地域の屋敷内にパラシュート落下事故が起こる。1992年（平成4）12月22日。



159 嘉手納基地包囲行動へ参加するため行進する村民。1990年（平成2）8月5日。